

全化協、神戸で開催

広報担当 宮原 誠

11月11日から2日間、神戸市にある兵庫県民会館で全国衛生化学技術協議会(全化協)が開催された。84の地方衛生試験研究機関の研究者や技術者などを中心に約350名が全国から参加して、過去最多の145件の研究成果が発表された。

総会で、年会長である兵庫県立健康生活科学研究所長山村博平氏から開催の挨拶があり、次いで、当会会長である西島



写真1 開会の会長挨拶を行う西島所長

国立衛研所長より、11月8日に実施された厚生労働省省内事業仕分けで、国の機関と地方の衛生研究機関との連携が重要であるとの認識が改めて示されたとの報告と共に、さらに連携を充実すべく、その中心的な会合としてこの協議会は位置づけられるとの挨拶があった。兵庫県理事清原桂子氏から開催の祝辞が寄せられた後、定例の議事が行われた。最後に次期年会長代理山岸敬於氏から来年の開催地長野への参加招請が行われた。

研究発表に先立ちシンポジウムが開かれ、厚生労働省医薬食品局食品安全部基準審査課の渡身三佳氏から“食品安全行政に関する最近の話題”についての講演があり、カドミウム、アフラトキシン、フタル酸エステル、残留農薬などによる汚染実態や現在及び今後の規制について説明がされた。引き続き国立衛研食品部からの“(食品中の)トランス脂肪酸に関するこれまでと最近の動向について”、食品添加物部からの“(玩具、容器包装中の)フタル酸エステルの規格改正と試験法”、衛生微生物部からの“(木の実等の)カビ毒に関する最近の話題”についての講演が行われた。これに引き続き、大妻女子大学名誉教授 池上幸江氏による健康食品に関する最近の話題として、保健機能食品、特定保健用食品、いわゆる健康食品などについての有効性・安全性確認方法などの解説があり、健康食品は国民の健康増進や維持にとって、本当に必要な食品であるか、国民にわかりやすい制度かを今後考えること



写真2 コウノトリ

兵庫県立コウノトリの郷公園提供

が必要で、その制度の改革が検討されるべきであるとした。最後に特別講演として 国の特別天然記念物であり、兵庫県の県鳥でもあるコウノトリの繁殖・放鳥の歴史に関する講演が“コウノトリの野生復帰—生物多様性の保全・再生—”という題名で兵庫県立大学自然・環境科学研究所の大迫義人准教授によって行われた。コウノトリたちが野生化し、その地域に住み着くためには無農薬農業の推進など、生息環境を整える必要があり、コウノトリが生息できる環境は人間にとっても健康で生活していく上に必要であるとした。

(2010/11/29)